

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200457	事業の開始年月日	平成13年7月1日
		指定年月日	平成26年7月1日
法人名	有限会社横浜ソフトケアサービスセンター		
事業所名	フレンジィ本宿		
所在地	(241-0023) 横浜市旭区本宿町18-14		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成26年12月5日	評価結果 市町村受理日	平成27年4月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者9名のこじんまりしたグループホームです。自立支援を進めながら、生活リハビリと規則正しくメリハリのある日常生活に力を入れ、大きな行事は年に数回程度計画します。自立支援として出来る事は些細な事もご自分でやって頂き、個々の状況に合わせてお手伝いは出来る人で分担。生活リハビリは建物の構造を活かし階段の昇り降りを足の筋力維持の為に。日常生活の食事・お茶・おやつは全員でテーブルを囲み団欒を兼ね一緒に時を過ごし、それ以外の時間は好きな場所で好きな事をして過ごす家庭的な共同生活。行事として入居者が楽しめる様な美味しい食事とちょっとリッチな旅行気分を味わえるようなバス旅行を年に1度企画。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年1月15日	評価機関 評価決定日	平成27年4月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 <p>この事業所は、相鉄線鶴ヶ峰駅から南西方向に徒歩約15分の閑静な住宅地にある。近くには本宿小学校がある。建物は既存民家を増・改築した家屋であり、家具なども家庭的である。1階に食堂・居間・浴室などの共用スペースがあり、2階に居室が配置されている。季節感を出すため、雛祭りやクリスマスの飾り付けをしている。</p> <p>事業所の運営理念は、介護の基本的な方向として、「入居者の状況を常に把握し、その場にあった声掛けを心掛ける」を定め、職員・利用者間のコミュニケーションを重視し、介護に活かしている。独居や身寄りのない方の入居も受け入れている。</p>
【自立支援と生活リハビリ】 <p>利用者の日常生活の維持・向上のため、室内体操や職員の手引きによる階段昇降、手引き歩行で、機能訓練を行っている。また、掃除・洗濯・食事等の家事の手伝いに積極的に参加してもらい、利用者の役割・生き甲斐を見出している。月に1回の外出や買い物には職員が付き添い出かけている。年1回のバス旅行では、体を使うイチゴ狩りなどを企画している。</p>
【外部の人との交流の機会】 <p>地域からトランプ(週に2回)、話し相手・傾聴(月に2回)のボランティアを受け入れている。旭区の介護相談員の派遣を受け、利用者の意見・要望を聞いてもらうなど、外部との交流の機会を作っている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	フレンドィ本宿
ユニット名	フレンドィ本宿

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はリビング・更衣室に貼ってあり共有し実践につなげている。	事業所の理念は、年頭に管理者（以降ホーム長と称する）が職員と話し合い、介護の現場に活かせるものを作成している。今年度の介護の基本的な方向を、「入居者の状況を常に把握し、その場にあった声掛けを心掛ける」と定め、リビング、事務室、更衣室に掲示し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・外食等地元の店を利用している。自治会の防災訓練に参加する予定。	地元自治会に加入し、回覧板で活動状況を確認している。利用者との散歩時には近隣住民と挨拶している。ゴミ掃除週間当番（3ヶ月に1回程度）の時は回収後に清掃を行っている。事業所の夜間想定防災訓練では、地域にチラシを100枚配り、7名の地域住民の参加を得た。地域から、トランプ（週に2回）や話し相手・傾聴（月に2回）のボランティアを受け入れている。旭区の介護相談員の派遣を受け、利用者の意見・要望を聞いてもらっている。看護専門学校の実習生を受け入れている。	地域の社会資源（小学校児童、音楽などのボランティア等）との交流促進を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や見学時に話をさせて頂きその中で認知症についての助言等を行ったりすることがある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他事業所・包括支援センター・自治会等の方々と話をする事により気付きや助言を頂く事もありサービス向上に役立っている。	会議は2ヵ月に1回開催している。出席者は、自治会会長、左近山地域ケアプラザ職員、近隣小規模多機能型居宅介護事業所管理者、家族代表、ホーム長である。会議では、運営報告等の後に質疑応答を行っている。参加者から、近隣小学校の防災訓練への参加の呼びかけなどがある。11月には夜間想定防災訓練を運営推進会議に合わせ実施した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会のブロック会で瀬谷区・旭区の担当者や保護課のケースワーカー等と話す機会があり協力関係を築くよう取り組んでいる。	旭区高齢障害支援課には、要介護認定更新申請代行手続きのため訪問したり、運営推進会議の議事録を持参したりしている。また、区の介護相談員を受け入れている。生活保護を受給中の方がおり、旭区生活保護課とは連絡を密にし車椅子の購入などの相談をしている。横浜市には、事故報告を行っている。防災訓練には消防署から職員を派遣してもらい指導を受けている。横浜高齢者グループホーム連絡会瀬谷区・旭区ブロック会に加入し、区職員や同業者と交流し困難事例検討会や研修に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の中には言葉で行動を止めさせる事も含まれると機会ある毎に説明し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営規定、契約書、重要事項説明書に身体拘束を行わないことを明記し、年に1回内部研修を実施している。スピーチロックなどはその都度注意している。日中は玄関を開放し、職員の見守りで安全を確認している。不意の外出があったので、旭区SOSネットワークに1名が加入している。また、「拘束のない介護」（かながわ高齢者あんしん介護推進会議）のポスターを玄関に掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等なるべく参加できるようにしている。ホーム内でも簡単な研修や入居者の状況を常に把握し見過ごされることが無いよう注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議で研修を行ったり機会がある時に話し合ったり活用できるように支援する準備が出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は時間を掛けて話をし、その都度疑問点を訪ねている。解約時も同様に説明を行ない理解して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には半年に1度のプラン変更時やお小遣い補充時面会時等入居者の変化や今後の見通し等話をする機会を設け要望等聞くように努めている。	家族の来訪時や電話連絡時に意見、要望を聞いている。介護計画書の見直し時にも意見を聴取している。職員には今年の事業所理念で示した通り、利用者の状況の変化を常に把握し、対応することを周知している。旭区の介護相談員に事業所とは別の立場から利用者の意見、要望を聞いてもらい、情報を得ている。生活保護受給者がおり、区のケースワーカーと連携を密にし利用者の要望を聞いて運営に反映させている。家族会は1回開催したが、その後は足並みが揃わず中止している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回ヘルパー総会を開催し一堂に会する機会を作っている。ホーム内では変更等する場合常に意見を求めている。	職員の意見・要望は、朝のミーティングやホーム会議（月に1回）で聞いている。勤務システムなどの変更時には、ホーム長が説明し職員の意見を聞いている。法人全体の職員総会を年2回開催し、意見を聞く機会を設けている。また、各種の資格取得の希望を聞き、外部研修等の受講については交通費を支給し勤務扱いとして支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や資格取得等考慮し、給料等に反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人が希望すれば研修等に参加することが出来る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修やグループホーム連絡会に参加し、同業者と交流する機会や質の向上を進める取組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛けを頻繁に行い、不安を取り除くよう努め本人の様子を見ながら好きな事や出来る事を探り、早く信頼関係を築けるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の様子をご家族に連絡すると共に確認しながら良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人の様子を観察する事から始め、日常生活で出来る事は何でも手伝って頂き、臨機応変に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活者として介護に取り組んでいる。入居者と一緒に物事を行なう事により、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に入居者を支えて行けるよう協力して良い関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	自宅にいる頃からのかかりつけ医の往診を継続している。	独居や身寄りのない利用者が多く、馴染みの人の来訪は少ない。ボランティア、かかりつけ医、出張美容師、出張寿司板前などの協力を得て、新たな馴染みの関係を築いている。馴染みの場所との関係継続支援として、近隣の散歩コース、買物、外食店に出かけている。利用者の家族が入居している特養へ出かけるときは職員が付き添っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し一人で動く事の出来ない方の下膳やコップを声掛けでさげて頂いたり入居者同士が関わりを持ちお互いに支え合える支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を提供できるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向に沿えるように努め自ら意思表示をする事の出来ない方はご家族や本人の表情・性格・状況を踏まえ利用者本位に検討している。	利用開始時には自宅を訪問し、本人・家族の思いや意向を把握している。独居の人はケースワーカーから聞いている。職員には声かけを通じ、コミュニケーションを取ることを指導している。把握が困難な利用者には、しぐさから読み取るなど意向の把握に努めている。旭区の介護相談員に、事業所とは別の立場から利用者の意見、要望を聞いてもらい、情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者個々と話をし、ご本人のこれまでの暮らしを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、心身状態・出来る事・出来ない事の把握や変化を見逃さないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良い生活を送る為に家族・担当医・職員等の意見を踏まえ計画を作成している。	本人・家族の意向を聞いて介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、本人・家族のほか医師の意見も取り入れて6ヶ月ごとに介護計画を見直している。心身の状態に変化があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で振り返りいつ頃から変化が表れ始めたか等共有しながら計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況は日々変化する為臨機応変に柔軟性を持ってサービスの実施に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の状況を把握し安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医や往診医に継続して掛かり、状況の変化を見逃すことの無いよう支援している。	利用者がそれぞれの、かかりつけ医の訪問診療（2週間に1回程度）を受けている。歯科医は随時往診がある。インフルエンザ、肺炎球菌の予防接種を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護あるいは医師に直接相談したり状況説明を行ない適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院が可能になるように医療関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の考え方を説明・確認し状況の変化等その都度話し合い家族の気持ちに寄り添いながらホームで出来る事を共有し支援している。	看取りは法人の方針で行わないこととしている。事業所の看取り指針「重度化した場合における（看取り）指針」では、医療連携体制を整えてから、看取り介護を行うこととしている。変化があったときは家族と相談し、可能な限り支援している。これまでに、主治医・本人・家族と協議し特養への入所を支援したことがある。	重度化や終末期の対応方針について、利用者・家族、職員、医療機関等と共有する取り組みとを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々機会ある毎に説明し簡単に演習を行ない実践力を身に付けるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を年1度行い近隣住民に案内チラシを配布している。実施時は10名弱の方が参加している。その都度協力をお願いしている。	夜間想定避難訓練を消防署立会いで年に1回実施している。昨年は11月に実施し、運営推進会議参加者と地域住民7名の協力を得た。事業所の自主消火・避難訓練は消火設備の点検日に合わせ実施している（昨年は2月と8月）。非常用食料・飲料水・防災用品などの備蓄は万全でない。	非常用食料・飲料水3日分程度の備蓄と防災用品を備えることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格等考慮し声掛けの方法や言葉を選び人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	利用者との契約時に個人情報保護の説明を行い、同意書を受け取っている。職員は、入職時に個人情報保護に係る誓約書を提出し、プライバシー保護の研修を受講している。個人情報に係る重要書類は、事務室の鍵の掛かるキャビネットに収納している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人に選んで頂けるような声掛けの方法を心掛け自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に嫌だと言う気持ちを表せるような希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に好みを把握して身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1度外食をしている。誕生日月の入居者に食べたい物を聞きあるいはこちらで好みの物が食べられるお店を探して行く。毎日の食事では一緒に片づけを行なっている。	配食業者から食材を調達し、職員が利用者の食事形態に合わせて調理している。利用者は下膳、食器拭き、テーブル拭きなどを手伝っている。職員が同じテーブルにつき、食事介助しながら同じものを食べている。出張寿司を招き家族と一緒に食事をしたり、月に1回外食している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューに沿って提供している為栄養バランスは勿論、水分量が足りない方には好きな飲み物を準備して補足的に飲んで頂く。食事量も本人に合わせて量を調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行ない、自ら行なう事が難しい方は職員が手を貸している。定期的に歯石や歯垢を取って頂き清潔保持を心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンによりトイレ誘導の時間を変更したり状況の変化により誘導方法を変更したり臨機応変に対応している。	排泄介助が必要な人には排泄パターンをもとに声掛けし、トイレに誘導して自立に向けた支援を行っている。トイレはリビング・食堂に2ヶ所、居室がある2階に2ヶ所ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝一番で冷たいお茶を飲んで頂き腸の動きを促している。下剤を使用する場合はその人に合った日数や時間帯を探り無理なく解消できるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日等は決めず3日に1度の入浴が出来るように支援している。外出等でいない時や体調不良で入浴できない日がある場合は翌日に変更したり午前・午後にしたりで対応する。	3日に1回入浴している。長湯を好むなど個人の好みに応じている。介助は、必要に応じて職員2名で行うこともある。入浴したがる人には無理強いせず、声を掛ける職員を代えたり、時間をずらし気分転換をして誘導している。同性介助の要望があれば対応する。菖蒲湯や柚子湯で季節感を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望で早く寝たり昼寝をしたり横になったりソファで居眠りをしたりと支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は常に最新の物でいつでも見る事が出来る所に保管してあり服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は日々の生活の中で自然に決まって来ている。嗜好品は甘酒を飲む人やトランプする人気分転換に買い物に行く人等様々で本人の希望に沿えるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日外へ出たいと希望のある人は買い物に付き合ってもらったり散歩に行ったりしている。冠婚葬祭等一般的に参加するものに対して外出できるよう支援している。	日に2回散歩に出る利用者もいるが、ホーム近辺は坂道が多く、高齢者の体力が低下しており、散歩は難しくなっている。外出できない場合は、室内体操や積極的な生活リハビリ（階段昇降、掃除・洗濯・食事等の家事の手伝い）で日常的に活動している。月に1回の外食や買い物には職員が付き添っている。年1回のバス旅行では、体を使うイチゴ狩りなどを企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や話し合いにて少額のお金を所持して頂いている。持っている事によって不安を解消する事にもなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在の入居者で電話や手紙を利用する方はいないが希望があればいつでも支援できるように準備は出来ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の利用する空間には余計な物は置かず、トイレや玄関へ行く途中に一休みできるように配慮し椅子を置いている。	民家を増・改築した家屋であり、家具なども家庭的である。リビングや2階の廊下にはソファが置かれている。壁面には利用者の作品が飾られている。季節感を出すため、雛祭りやクリスマスの飾り付けをしている。濡れタオルなどを加湿器代わりにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席を行き来したり必要に応じて丸椅子を出したりと好きな場所へ移動できるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を覚えられない入居者にもドアを開けるとここが自分の部屋だと解るように使い慣れた家具や物を持ち込んで頂き居心地良く過ごせる空間になるよう工夫している。	居室には空調設備、照明器具、カーテン、クローゼットが備え付けられている。利用者は馴染みのテレビ、マスコット、整理たんす、鏡、椅子、時計などを持ち込んで居心地よく過ごせる部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状況により居室の変更やテーブル席の変更を行ない少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

フレンドィ本宿

作成日

平成27年4月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	35	防災対策として非常食の備蓄と防災用品の備えが出来ていない。	非常用食料・飲料水を3日を目安とし準備する防災用品も必要最小限は準備しておく。	事業所で対応できるものは順次購入しそれ以外は本社でお願いをする。	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。